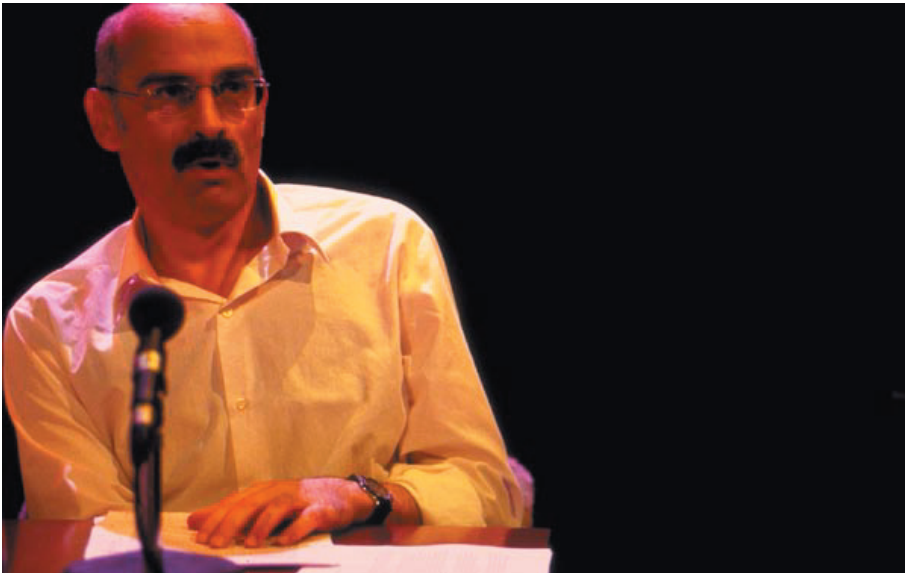


マウリツィオ・ラッツァラート氏 来日



日時 6月23日(月) 14~18時

場所 立命館大学衣笠キャンパス 学而館 二階第二研究室

失業・過労・不安定生活・貧困を乗り越えていく力として、人々は何を手に行っているのか。人がもつ労働力以外の力を十分発揮できるような社会保障のあり方があるのではないか。本企画では、イタリア生まれにてフランス在住の気鋭の思想家であるマウリツィオ・ラッツァラート氏を招き、芸術活動に従事する非正規労働者や不安定生活者による運動の現状、そして、万人への所得保証に関する議論やその理論的成果について伺う。さらに、日本の非正規労働者の組合活動家、障がい者の介助労働者、若手研究者を交えて、労働・雇用・保障に関するオルタナティブのあり方について討論を行なう。

# 労働・雇用・保障の オルタナティブ

発表予定者

マウリツィオ・ラッツァラート

渡邊 琢 (かりん燈——万人の所得保障をめざす介助者の会)

橋口昌治 (立命館大学大学院生/ユニオンぼちぼち)

中倉智徳 (立命館大学大学院生) ほか

コメンテーター

酒井隆史 (大阪府立大学)

廣瀬 純 (龍谷大学)

村澤真保呂 (龍谷大学)

## マウリツィオ・ラッツァラート

1955年生。社会学者、哲学者。邦訳書『出来事のポリティクス』(洛北出版、6月中旬刊行予定)、邦訳論文「マルチチュードと労働者階級——ラッツァラートからパオロ・ヴィルノへの問い」(『現代思想』2003年2月号所収)、「所得を保証すること——マルチチュードのための政治」(『VOL 02』2007年所収、以文社)等。

主催：立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点  
院生プロジェクト「労働問題・不安定生活・保証所得をめぐる国際的研究」  
立命館大学生存学研究センター

共催：龍谷大学国際社会文化研究所

お問い合わせ：中倉智徳 (立命館大学大学院先端総合学術研究科大学院生) so029997@ce.ritsume.ac.jp